●「SHINWA WALK～伝説そぞろ歩き」は、「ギリシャ神話と日本神話のハイブリッド」という手法で、郷土の神話、伝説、民話の足跡をたどるロマン紀行です。新しい伝説の世界をお楽しみください。

SHINWA WALK 39

39th Letter

住吉神社伝説

伝説そぞろ歩き

資材積み
漕ぎい出しての
須磨の浦
航海すがら
安全願う

航路安全を祈願し神を祀る
風光明媚な景勝地としても有名

住吉神社の周辺は、名古屋城築城の時に、石や木材などの建設資材を船から陸揚げした場所だといわれていて、住吉神社は「名古屋城築上建設守護神」とされ、その作業に携わった人々によって大阪の住吉神社を勧請してできたものといわれています。

江戸時代の熱田は、東西交通の要衝であり、代表的な宿場町として繁盛していましたが、ここはまた名古屋にとって海の玄関口でもありました。堀川沿いには米蔵が軒を連ね、港には千石船があわただしく往航していました。熱田にそうした航海の安全を守る神様・住吉神社が祀られたのも当然のことでしょう。

住吉神社の祭神は、底筒男命（そこつつのおのみこと）、中筒男命（なかつつのおのみこと）、上筒男命（うわつつのおのみこと）で、「住吉三神」と呼ばれています。

創建は慶長年間（1596～1615年）とする説と享保19年（1734年）とする説があり、確定していませんが、宝暦12年（1762年）になると、運送守護を願って荷主の笹屋（後の岡谷鋼機）惣七をはじめ、多くの回船運送問屋などにより、社殿の修復が行われています。

境内の常夜燈などに書かれている寄進者を見ると、名古屋だけでなく桑名や知多半島の海運業者からも深い信仰を得ていたことが分かります。宝暦11年（1761年）には住吉神社の東側に地蔵堂が建立され、黄檗宗（おうばくしゅう）の東輪寺から栢禅（はくぜん）和尚が来て住持することとなり、神仏混淆（こんこう）となりました。

この地蔵堂は寺子屋として子供たちに読み書きを教えていましたが、明治には第29義校として学校となり、続いて学制の実施で住吉学校と改称されました。さらに生徒数の増加に伴い、神社西に新校舎を建設。これが現在の高蔵小学校の前身です。

住吉神社は、堀川を西に望む高台に位置し、風光明媚な景勝地としても有名で、文人もよく訪れていて、名古屋の代表的な俳人・久村暁台（きょうたい）も弟子とともに雪景色を楽しんでいます。暁台没後12年の享和3年（1803年）には暁台を偲んだ句碑も建立されています。

▲「名古屋城築上建設守護神」とされる住吉神社。

海を支配する神・ポセイドン
さまざまな怪物や魔女も支配下に

航海安全の神様の話でしたが、ギリシャ神話で海の神といえば、ポセイドン。ティタン神族の神々を征服した後、ゼウスとハデスとともに世界を三分割統治して、絶大な力を持っていました。

ポセイドンの妻はアムピトリテ。ナクソス島の浜辺で踊る彼女を見初め求婚しましたが、彼女に遠くまで逃げられます。そこで、イルカに行方を探させ結婚に成功します。

2人の間には3人の子供がいます。なかでもトリトンが有名。上半身人間、下半身魚の半人半魚で、時々いたずらがすぎて神に懲らしめられることもありましたが、普段は波間にのんびりと遊ぶ神でした。

ポセイドンが支配する海には、数多くのさまざまな住人たちがいました。なかには恐ろしい姿をした怪物や魔女もいて、有名なオデュッセウスの冒険でも彼らが入れ代わり立ち代わり登場し、オデュッセウスにさまざまな苦難を強います。

代表的なものを挙げると、まずは風の精・怪鳥ハルピュイア。また、上半身は女性で下半身は鳥の姿をした魔女セイレンもいました。彼女は甘く美しい声で船乗りたちをおびき寄せ、その声に酔いしれて引き寄せられると、セイレンの餌食になってしまうと伝えられていました。アイアイエ島に棲む魔女・キルケは、魔法の酒によって人間を豚に変えてしまう力を持っていました。一度も太陽が上ったことのない島に住む3人の老婆・グライアイは、生まれた時から白髪で1本の歯と一つの目を3人で共有していました。

また、世界の果てのオケアノスの岩山に住むゴルゴン姉妹は、見るものをすべて石に変えてしまう力を持っていました。なかでもポセイドンと仲が深かったのが、メドゥーサ。かつては美しい娘でポセイドンとも結ばれましたが、アテナの黒髪より自分の黒髪の方が美しいと自慢してしまったため、アテナに蛇の髪を持つ魔女に変えられてしまったのです。

さらに、ポセイドンの支配下には、さまざまな風の神がいました。風の神の総称に使われるアイオロス、海の季節風の西風ゼビュロス、短気な北風ボレアス、南風ノトス、東風エウロスがそれ。暴風雨に荒れ狂う海を支配するのもまた、海神の力だったからです。

船旅の際には、ポセイドンのことを思い出して祈りを捧げてみてはいかがでしょう。

※次回は観聴寺の月待供養伝説を特集します。お楽しみに。

■ 写真／Kiyoshi K ■ イラスト／Rei ■ 取材・文／Icarus